

6/7(土)～8(日)

第38回昆虫切手展

▽概要

「昆虫切手展」は第1回の1973年から数年おき、1991年の第6回からは(コロナ禍を除き)毎年、第11回から6月の“むしの日”の近くに開催しています。

毎回、小型印を作成しています。2011年からはメインテーマの昆虫の種を選んでいきます。今年は、展示作品「人間と昆虫との関わり」をひとつのテーマとして、90年前に絶滅した「イピタスタイマイ」。当

会も切手の展示協力をしている、今春に開館した「虫の里・福島奥久慈 昆虫館」の最大の目玉標本でもある希少種です。

作品はいずれも会員の日頃の収集の成果をまとめたもので、種別や国別の昆虫、テーマを持たせた作品など、さまざまな切り口から古今東西の切手が集結。国や時代による切手の違いだけでなく、昆虫のことも語らいながらご覧いただけると思います。

▽展示内容・みどころ

「人間と昆虫との関わり」では、生態系における両者の切っても切れない関係や、ツエツエバエやハマダラカのような大害虫、蚕やミツバチのような使役昆虫、その他の昆虫の恩恵についてもふれています。「マラリア防除の協調切手」は、世界各国のキャンペーン切手をまとめたもの。「絶滅・絶滅危惧種」①にも触れる予定です。

種別では、「世界のカブトムシ・

コガネムシのなかま」②、「ほたる、蛍、Firefly」、「アフガンとアウトクラートルウスバ」、「タテハチョウ科のマキシマフィリー」、「ストロー状の口を持つセミ・カメムシのなかま」、珍しいところでは「幼虫・蛹」ばかりをまとめた作品も。

国別では「東ヨーロッパ諸国の昆虫切手」③、「アジアの蝶・昆虫切手」、「日本の蝶」、「最近の日本昆虫郵趣2023-2024」④、さらに昭和100年に因み「昭和に発行された

昆虫切手とカバー」⑤、「昭和初期の昆虫関連図案消印」と、珍しく日本切手も揃いました。「最近の日本～」は準切手、小型印、風景印などを含み、近年発行の日本切手を集めている方々にも身近に感じいただけると思います。

会場に来られない方にも多少雰囲気を感じていただけるように、2日目にZoomで作品解説を中継したいと思います。会場内で行いますので、来場される方もお気軽にご参加ください。(文・澤口尚子)

① チャド発行「Eurytides iphitas」。



② トーゴ発行「ローヤルゴリアスハナムグリ」。



③ アゼルバイジャン発行「アポロウスバシロチョウ」。



⑤「第16回国際昆虫学会議記念」。



会期 | 2025年6月7日(土)～8日(日)
会場 | 3階スペース1, 2
時間 | 10:30-17:00 (8日は16:00まで)



④「グリーティング(ライフ・花)」。